

フランシス・ベーコンとキング・ジェームズ訳聖書 (1)

(1)

フランシス・ベーコンは、キング・ジェームズ訳聖書の中に、暗号を忍ばせた。

Macduffによると、そもそも暗号は、ヘンリー8世の時代にさかんになり、エリザベス女王の治世において政治的ツールとして大いに活用された。

当時、イギリス人は、暗号に没頭した。モンマウス公は、ジェームズ2世を退位させるために暗号文書を利用した。

芸術作品において暗号を利用する場合、だいたい、それは社会における著者の立場に関係している。16世紀と17世紀の無数の書物が、匿名かイニシャル、偽名で書かれた。

http://igw.tuwien.ac.at/peterf/dud_npr/kryptologie_im_16ten_jh/criptolo.htm

フランシス・ベーコンは、次の表にある暗号を利用した。

<http://www.millnm.net/cyphertable.gif>

それは、Simple, Reverse, Short, Kayeの4種類であった。アルファベットにそれぞれ独特な方法で数字が割り当てられている。

Richard Allan WagnerのThe Lost Secret of William Shakespeareによれば、ベーコンは、10代のころから聖書を自分で訳すことを固く決意していた。(62ページ)

ジェームズ王はその機会と手段を提供した。ベーコンは、その見返りに、プロジェクトのすべての功績を王に謹呈することに同意した。

それゆえ、本来ならば、キング・ジェームズ訳は、「フランシス・ベーコン訳」と呼ぶべきであろう。

しかし、シェークスピアの作品同様、ベーコンは、自らの名を聖書に表すことを避けた。ただし、それも、「表面的には」という但し書きがつく。

なぜならば、ベーコンの名前は、聖書の中に暗号という形で随所に書き込まれていたからである。

1609年までに、翻訳の作業は完成した。草稿がジェームズ王に上呈された。

ジェームズ王は、それをベーコンの手に渡し、秘密の作業が開始された。

(2)

ベーコンの聖書は、英語を完全に変えた。

「1611年のキング・ジェームズ訳聖書と1623年のシェークスピアの『フォリオ』の出版によって、英語はたったの12年の間にその姿を完全に変えた」。(同上62ページ)

故チャールストン・ヘストン曰く、「キング・ジェームズ訳聖書ほど読まれた文学作品はほかにはない」。

エドウィン・D・ローレンス曰く、「ベーコンが誕生したころ、英語はまだ文学の言語ではなかった。しかし、彼が亡くなったころには、人類がかつて所有したものの中でもっとも高貴な思想の伝達手段に変わっていた。ベーコンは、このことをもっぱら自身の聖書とシェークスピアによって達成したのであった」。

(3)

フランシス・ベーコンは、シェークスピアの作品同様、キング・ジェームズ訳聖書の中にも、コード化されたメッセージと、薔薇十字団・フリーメイソンのシンボリズムを埋め込み、この聖書の真著者であり、真の翻訳者、編集者としての自らの名前を刻みこんだ。

キング・ジェームズ訳の1611年版において使用されたコードの中でもっとも顕著なのは、彼のトレードマークである「章頭飾り」である。

この自身の名前を隠した章頭飾りは、シェークスピアの『テンペスト』の初版本にもある。

<http://www.youtube.com/watch?v=7nMLVlcVcaE>

同じものは、1593 年出版の Venus and Adonis (シェークスピアの名前を用いた最初の作品) や、Advancement and Proficiency of Learning にもある。

「ベーコンのすべての作品に、このデザインが形を変えて用いられている」(同上 63 ページ)

(4)

シェークスピアにおいてと同様に、キング・ジェームズ訳聖書においても、自分のことを意味するキーワードとして hog, sow, swine などの言葉を利用した。

boar (イノシシ) はそのうちの一つであった。

著書 Novum Organum に載っているベーコンの紋章にはイノシシが現れる。

<http://www.millnm.net/boarbacon.gif>

ある船の遭難をきっかけに、それまで恐れられていたバーミューダ諸島が楽園であることが発見された Sea Venture の話は、テンペストにおいて利用され (The Shakespeare Controversy: An Analysis of the Authorship Theories by Warren Hope, Kim R. Holston)、その執筆を刺激した。

その後に登場した、植民地における最初の通貨、シリング、6 ペンス、3 ペンス、2 ペンスは、Hog money と呼ばれ、その表にはイノシシの図が載っている。

<http://www.millnm.net/boarbacon2.gif>

ベーコンの紋章のイノシシと酷似しているのがお分かりだろうか。(*)

(5)

キング・ジェームズ訳では、創世記 1 章 1 節から数えて 46 番目の言葉は Light (光) である。

ジュネーブ聖書では、46 番目は God (神) である。

つまり、「神」が「光」に代えられている。

Light は、薔薇十字団とフリーメイソンのいずれにおいても、もっとも重要な言葉であり、フリーメイソンでは、階級が上がるごとにそのイニシエーションのはじめに、「私は光を受けることを希望する」と宣言しなければならない。

神を退け、光を求めるフランス革命を主導した啓蒙主義の英語は Enlightenment である。

ここにおいて、ベーコンは、神ではなく、光を崇拝する意志を示したと見るべきではないだろうか。

(*)

これは、ベーコンによって新アトランティスとして設計されたアメリカの植民地がいかにもその影響を受けていたかを示している。

下リンクのニューファウンドランドが発行した切手には、「ロード・ベーコン—植民地計画における導きのスピリット」と記されている。

http://www.millnm.net/Lord_Bacon_-_the_guiding_spirit_of_colonization_scheme.jpg

ちなみに、アメリカという国名の由来は、従来の解釈ではアメリカを発見したと考えられていたアメリゴ・ベスブッチというイタリア人であるが、彼は実際のところアメリカの発見者ではない。

Richard Allan Wagner によれば、それはユダヤ教の、ナソレ、エッセネ、クムラン各教団が地上の桃源郷を象徴する星の名とした Merica からきているという。

実際、この Merica という星は金星であり、ナソレ教団によれば、Merica とは「きらめく星」の西に存在する天国のような土地を意味した。

このナソレ教団は、グノーシス教の一種であるマンダ教と深い関係にある。

テンプル騎士団が、テンプル山を発掘調査した際に、ナソレ派の巻物を多数発見し、その中に Merica について記されているのを発見したと考えられている。(同上 73 ページ)

フランシス・ベーコンにはこの知識が誰よりもあった。

Reverse 暗号によれば、Merica は合計すると 103 である。

暗号において 0 は省くという規則があるため、それは 13 である。

イギリスの植民地が 13 あったことはけっして偶然ではない。

ベーコンの計画は、アメリカ大陸にグノーシスの楽園 Merica を作ることであった。

フランシス・ベーコンとキング・ジェームズ訳聖書 (2)

(1)

キング・ジェームズ訳において、創世記 1 章 1 節から数えて 46 番目の言葉が「光」になっていると述べた。

なぜ 46 なのか。

Richard Allan Wagner (自身が 32 階級スコティッシュ・ライト・フリーメイソン兼 AMORC 薔薇十字団員) の前掲書によると、フランシス・ベーコンが自らの偽名として使用した薔薇十字団の創設者クリスチャン・ローゼンクロイツ Christian Rosenkreutz を Kaye 暗号で表すと 406 になる。

暗号では、0 を省くから 46 となる。

興味深いことに、この Christian Rosenkreutz を、ベーコンが利用したもう一つの暗号 Pythagorean で表現すると、 $103=13$ になる。

Christian Rosenkreutz の別名である Brother CRC と Father CRC を Simple 暗号で表現すると、 $103=13$ になる。

ちなみに、CRC は、Christian Rose Cross = Christian Rosenkreutz の略。

Shakespeare も Simple 暗号で表現すると、同じ数字になる。

つまり、まとめると、

- ・フランシス・ベーコン=Christian Rosenkreutz (Kaye 暗号) = 46
- ・フランシス・ベーコン=Christian Rosenkreutz (Pythagorean 暗号) =Brother CRC (Simple 暗号) =Father CRC (//) =Shakespeare (//) = 13

キング・ジェームズ訳聖書などベーコンの著作や編集書において 46 と 13 が何らかの形で登場したら、それはベーコン自身を表しているとも考えられる。

(2)

さらに、Richard Allan Wagner は、「詩篇は、ベーコンが自らのメッセージを伝えるために利用した書である」という。

とくに、「ベーコンの光」の詩篇である 46 篇には巧妙な仕掛けがしてある。46 篇を中心とする 45~47 編において、彼はあることを伝えようとした。

詩篇 45、46、47 に、Pythagorean, Kaye, Simple という 3 つの暗号が適用されている。

Pythagorean 暗号において、45 は Shakespeare と一致する。

さらに、詩篇 45 篇は節が 17 ある。17 という数字は、Pythagorean 暗号において Bacon と一致する。

詩篇 46 篇に Kaye 暗号を適用すると、46 番目の単語は shake である。Selah を含めずに後ろから数えて 46 番目は spear である。

ただし、ここで Selah (ヘブル語で、「楽器演奏が始まるので朗読を中止して聞け」の意味) は重要である。

なぜならば、それは Simple 暗号で 33 だからである。これは、Simple 暗号で Bacon と一致する。

ベーコンは、意図的に詩篇を Selah で終わらせたのは、自分が終着点であると誇示するためだろう。

Selah を含めると、spear は 47 番目となるが、ここにも大きな意味が含まれている。

47 という数字は、Simple 暗号でメイソンの祖ヒラム (Hiram) と一致する。(*) (**)

47 は、Hiram を象徴とするマスター・メイソンの数字である。

shake と spear の間の単語数は、111 である。111 は、Kaye 暗号で、Bacon と一致する。

つまり、shake (46) --- Bacon(111) --- spear (47) という構造である。

先に述べたように、

Christian Rosenkreutz は 46 で、Hiram は 47 なので、

これは、

Christian Rosenkreutz (46) --- Bacon (111) --- Hiram (47) という構造である。

左に薔薇十字団の始祖、右にフリーメイソンの始祖を従えて、中央にベーコンが君臨する。

さらに、巧妙なのは、45 46 47 の数字の並び方である。

十の位の数字 4 と 4 と 4 の並び、つまり、444 と 一の位の数字 5 と 6 と 7 の並び、つまり、567 を足すと、つまり、 $444+567=1011$ 。これは暗号の規則で 111 と等しい。

また、45 46 47 の数字の並びを前から数えて 3 番目の数字「4」で分けると、

45 4 | 6 47

454 と 647 になるが、これを足すと、つまり、 $454+647=1011=111$ 。

いずれも、Bacon を指す。

(3)

合衆国は、象徴として 13 という数字を多用する。(前述のように、ベーコンの偽名 Christian Rosenkreutz を Pythagorean 暗号で解読すると 13 になる。)

- 最初の植民地の数は 13 であった。
- 独立宣言の署名者は 13 人であった。
- 米国国旗のストライプは 13 本である。
- 1 ドル札の ANNUIT COEPTIS は 13 文字。
- 1 ドル札及び米国国璽に記された文字 E PLURIBUS UNUM は 13 文字。
- 1 ドル札の鷲の上にある星の数は 13 個。
- 鷲の前にある盾のストライプは 13 本。
- 鷲がつかんでいるオリーブの枝の葉は 13 枚。
- 13 個の果実と、13 本の矢。
- 第二次世界大戦後に GHQ に接収された巣鴨拘置所に設置された絞首台の階段は 13 段。
- 連邦準備制度が設立されたのが 1913 年。

これは、合衆国が、フランシス・ベーコンの理念「新アトランティスの創造」のもとに作られたことを示している。

ちなみに、アトランティスとはノアの洪水前に存在した文明国。

ノアの洪水前に存在し、洪水によって滅んだ文明とは、「神に反逆する呪われた文明」である。

聖書では、「地は暴虐で満ちた」とある。

アトランティスとは、神に逆らう文明の象徴。

ベーコンはこれを新大陸において復活させようとした。

ニューヨーク、ニューハンプシャー、ニューイングランドなどの名称の「ニュー」は、Richard Allan Wagner によると、単なる「新しい」という意味ではなく、ニューアトランティスの町という意味である。

アメリカの 5 大植民都市 (ワシントン、ボルチモア、フィラデルフィア、ニューヨーク、ボストン) は一直線上にあ

り、その先にイギリスのストーンヘンジがある。

これは、クリスチャン文明の到来以前のイギリスへの回帰を示しているのではないか。

ジョージ・ワシントンやトマス・ジェファークソン、トマス・ペインはベーコンの著作を熱心に読んでいた。(69 ページ)

ジェファークソンは、どこに行くにもベーコンの絵を携帯していた。(同上)

マンリー・P・ホールは、著書 The Secret Destiny of America において、次のように述べた。

「フランクリンは、オーダー・オブ・クエスト (フリーメイソンの一組織——翻訳者) の代弁者であった。フランクリンと一緒に働いていた人々もその結社のメンバーであった。計画は実現しつつあった。新アトランティスは、150 年前にフランシス・ベーコンがたてた計画に基づいて実現しようとしていた」。

(3)

911、阪神大震災、311、そして、ハリウッド映画『ロサンジェルス決戦』。

日付に、全部 46 と 11 という数字が入っている。

<http://www.youtube.com/watch?v=6JV1fT-eHd8>

オバマ大統領は、911 記念集会で詩篇 46 篇を朗読した。

このようなことは、絶対に偶然の一致と考えることはできない。

すべて、ベーコンの野心「アトランティスの復活」と関係している。

(*)

Hiram は、クラフト・フリーメイソンの第 3 階級のときに見せられる寓話劇の中の傑出した人物である。ソロモン王の神殿の建築責任者であったが、ある日暴漢たちに拉致された。マスター・メイソンの秘密の合言葉を漏らすように彼らに脅かされたが口を割らなかったために殺害された。

(**)

メイソンの第 3 階級の、ユークリッドの要素における「第 47 の問題」(「ピタゴラスの定理」としても有名) に関する講義において、47 という数字は 2 回登場する。

フランシス・ベーコンとキング・ジェームズ訳聖書 (3)

(1)
1307年にローマ・カトリック教会は、 Templar 騎士団を迫害し、そのグノーシス思想と科学的知識は地下に潜った。芸術や科学に詳しい人々は、ヨーロッパ全土の小さな秘密の集会を持って集まるようになった。(Richard Allan Wagner, Ibid., p. 54)

この秘密の「運動」は、これに関わる人々によって「目に見えない大学 (The Invisible College)」とか「偉大な社会 (The Great Society)」と呼ばれた。(*)

このときすでにこれが、「薔薇十字団」とか「フリーメイソン」と呼ばれるようになっていたか定かではないが、まだ統一的な目標を持ち、行動を取る組織としては成立していなかったことだけは明らかである。

しかし、この運動は、ルネサンスの起点となると同時に、初期の段階においては、ダビンチやミケランジェロらイタリア人の天才的職人の出現によって爆発的に発展した。

この流れは、16世紀にイギリスにおいて知的な果実を結ぶことになる。フランシス・ベーコンを指導者として、イギリスの文学、科学、社会思想は大きな進歩を遂げた。

(2)
「薔薇十字団」の形成において礎石となったのは、イギリスの神秘学とカバラ学の絶対的権威であったジョン・ディー博士である。

若者であったフランシス・ベーコンを薔薇十字団に引き入れ、イニシエーションを授けたのは、まさしく彼であった。

オランダの詩人ジェイコブ・キャッツの墓碑 (1655) には、「開かれた墓の上で、ディーは、ベーコンに『薔薇十字団の光を放つランタン』を渡した」と記されている。

フランシス・ベーコンは、薔薇十字団のリーダーになった。

ジョン・ディーを通じて活動初期のころのベーコンと知り合ったドイツの薔薇十字団のマスター、ミヒャエル・マイヤーがロンドンにやってきた。それには、2つの理由があった。(55 ページ)

1. シェイクスピアを学ぶため。ベーコンが所属していた薔薇十字兄弟団 (Fra Rosi Crosse) が作り、シェイクスピアが用いた新しい英語には、薔薇十字団の象徴がふんだんに織り込まれていた。シェイクスピアが用いた豊かな暗喩の言葉はすぐに、この運動の基本的理想と思想を表現するための手段となった。

2. 運動の方向性を決め、目的をはっきりと表現するようにベーコンを説得するため。この目的のために、マイヤーは、実際にはいかなる権威もなかったが、薔薇十字団総統 (Rosicrucian Imperator) の称号をベーコンに与えた。ベーコンはそれを謙遜に受け入れた。

(3)
薔薇十字団の創設に際して、ベーコンは、その組織が偉大なる回復 (Great Instauration) を純粋に、かつ妨害なく遂行するために、様々な対策を講じた。

ベーコンは自らが宗教の教祖になることを避け、薔薇十字団がベーコン教にならないために、教祖を神秘的な人物 Christian Rosenkreutz (または、Brother CRC や Father CRC) に設定し、自らの名前を暗号として隠し、それを解読しない限り表面に現れないようにした。(56 ページ)

(4)
ユートピアの概念は、プラトンの『国家』に始まる。17世紀以前に、このような理想の社会は、書物か想像の中にか存在しなかった。

フランシス・ベーコンは、自らの理想の社会、薔薇十字団の理想的文明を、著書『新アトランティス』の中で描いた。

この理想社会は、ヨーロッパにではなく、新大陸に求められた。

ジェームズ王の主要な計画の一つは、新世界の植民地化の拡大であった。この計画と薔薇十字団の理想が合体し、バージニア会社が生まれた。

ベーコンは、バージニア会社の創設メンバーの一人であった。

バージニア会社とは、「北アメリカ海岸に植民地を建設する目的で、1606年にイングランド王ジェームズ1世に勅許された1組のイングランドの株式会社」(Wikipedia)である。

この会社の憲章が、アメリカ合衆国憲法の著者に影響を与え、その土台となった。

(5)

1606年に、いくつかの薔薇十字団による植民地が建設された。そのうちで最も大きかったものが、現在のペンシルベニア州に発展した。後に、(ベーコンの影響を強く受けていた)ベンジャミン・フランクリンが、最高位の薔薇十字団及びフリーメイソンの会員としてこの植民地から現れた。

前述のとおり、他のアメリカの国父たち、すなわち、ジョージ・ワシントン、トマス・ジェファソン、トマス・ペインもベーコンに強く影響されていた。

(6)

このように見るならば、アメリカ合衆国とは、クリスチャンの国家というよりも、薔薇十字団・フリーメイソンの国ということができる。

アメリカ合衆国の建国の目的は、薔薇十字団・フリーメイソンの国の建設であり、それは、悪魔の計画である。

エデンの園から現在までの悪魔の流れはこうだ。

1. エデンの園におけるサタンの誘惑「知識(力)による救い」
2. 洪水前の反神的文明(アトランティス)
3. バベルの塔
4. バビロン文明
5. グノーシス
6. テンプル騎士団
7. ジョン・ディー
8. フランシス・ベーコン
9. 薔薇十字団・フリーメイソンの結社
10. キング・ジェームズ訳とシェークスピアを通じての英語革命・キリスト教の破壊と薔薇十字団・フリーメイソンの宣伝
11. ベーコンの弟子を通じてのアメリカ建国
12. アメリカの武力と文化を通じての世界制覇

(*)

「偉大な社会(Great Society)」は、米国公教育の父ジョン・デューイの理想でもあった。また、ジョンソン大統領も、これをスローガンにかかげて、社会主義政策を推進した。

フランシス・ベーコンと欽定訳聖書、シェークスピア、アメリカ建国

(1)

Peter Dawkins 1997 FBRTによると、シェークスピアはフリーメイソンだった。

「もっとも重要なことだが、シェークスピアの戯曲と詩には、高位のメイソンしか知りえないメイソンの習慣や用語や教えに関する知識の証拠に満ちている。実際、シェークスピアの戯曲と詩の全体が、フリーメイソンのイニシエーションの思想と階級のいずれをも具現化している。これらは、メイソンの寓話と類似し、それを暗示する様々な寓話において表現されている」。

「1929年、ストラトフォード・アポン・エイヴオンのシェークスピア記念劇場において礎石が置かれた。儀式は完全にフリーメイソンの様式であり、イギリスの合同グランドロッジのプロ・グランドマスターであったロード・アンブシルが、4000年前にサハラで使用された古代エジプトの大槌を用いて執り行った。600人のメイソンたちが完全正装で出席した。なぜグランドロッジは、シェークスピアの記念と、戯曲の上演を重視しなければならないのだろうか」。
<http://www.sirbacon.org/Dawkinsfrmsnry.htm>

(2)

次のビデオ（英語）をご覧ください。非常に重要なことが語られている。

<http://www.youtube.com/watch?v=I2XqNv33DNE>

独立戦争時の5つの都市、ワシントン、ボルチモア、フィラデルフィア、ニューヨーク、ボストンは一直線に並んでおり、その先をずっとたどると、イギリスのストーンヘンジに行き着く（0:18:42から）。

これらを結んでいるのはパワーの帯（アルフレッド・ワトキンスが「レイライン」(Ley line)と命名)であり、その上には古代の様々な遺跡がある。

ワシントンDCは、第77子午線に沿って造られている。オカルト主義者にとってこのラインは、「神の経度」と呼ばれ、神聖であり、そこに旗を立てることは特別な意味があった（0:25:12から）。

ワシントンDCを作る際に測量のために派遣された人物は、ベーコンの結社のメンバーだった。

これらの5つの都市の配列、ワシントンDCが第77子午線上に作られたのは、初期アメリカの人々が古代の神秘学的な知識に乗っ取って国づくりをしようとしていたことの証拠である。

(3)

アメリカ建国の隠れた意味は、フランシス・ベーコンに関する知識がないとわからない。

16世紀にフランシス・ベーコンが薔薇十字団のトップに座った。

そして、新大陸にニュー・ワールド・オーダー（ニュー・アトランティス）を作れとの命令を部下に発した（0:29:20）。

ニューファンドランドが発行した切手に「フランシス・ベーコン——植民地計画における導きのスピリット」と記されている（0:29:43）。

現在でも、薔薇十字団においてフランシス・ベーコンは、秘密を伝える半神的存在としてあがめられている（0:29:53）。彼の影響は今日のフリーメイソンにおいても絶大である。

(4)

以上、フランシス・ベーコンが果たした大きな影響を考えると、そして、シェークスピアがフリーメイソンであったということを考えるときに、次の説も俄然、説得力を増してくる。

「シェークスピアが戯曲を書いたのではなく、真作者は、フランシス・ベーコンと、ベーコンが雇った人々であった。ベーコンがこれらの戯曲を書いた目的は、英語の諸方言を統一するためであり、その究極的な目的は、フリーメイソンのニュー・ワールド・オーダーを米国を通じて開始するためであった」。

<http://www.youtube.com/watch?v=ZKaK6G3do6U>

シェークスピアと欽定訳聖書は、実は、バベルの塔建設のために「言葉を統一する」必要からだったのかもしれない。

悪魔は聖書を毀損したいのである

(1)

ウェストコットとホートの選んだ写本に基づく翻訳では、イエスの御名が数多く消されている。

これは、フリーメイソンのニュー・ワールド・オーダーが、イエスを中心とした新体制ではなく、ルシファーを中心としたものであるとの考えに導くためと思われる。

統一協会の教えは、「イエスは失敗者であった」というものだ。だから新しい世界をもう一度作り直す必要があると。そこで再臨のメシア、文鮮明が登場すると。

プレ・ミレも同じである。「初臨のキリストは失敗した。旧約の預言を成就できなかった。だから、再臨が必要だ」との教えだ。

ウェストコットとホート→統一協会→プレ・ミレ福音派

これは、すべて同じ源から発している。

それは、

グノーシス→フリーメイソン→啓蒙主義である。

つまり、「善悪の知識の木から取って食べることによって救われる」教である。

(2)

聖書に関する問題は、ウェストコットとホートだけではないかもしれない。

KJV がすでにベーコンを通じてフリーメイソンの仕掛けを組み込まれている恐れがある。

tomomahi 氏によると、同じ Textus Receptus を底本とする Geneva Bible では、創世記 46 番目の単語は God である。

God を light に変えるなどグノーシスのやりそうなことである。

神の代わりに「光をもたらす者（ルシファー）」を崇拝せよというメッセージか。

(3)

仮に KJV がフリーメイソンの道具になっているとすれば、啓蒙主義側による攻撃はすでに KJV から始まっていたということになる。

そして、われわれは、KJV よりも、それより 51 年早く、ビザンチン写本→Textus Receptus に基づく Geneva Bible を英語翻訳聖書の基準にしなければならないということになるだろう。

Wikipedia によると、Geneva Bible は、英語訳聖書としては歴史的にもっとも重要な翻訳である。16 世紀のプロテスタント運動にとって主要な聖書であり、オリバー・クロムウェルやジョン・ミルトン、ジョン・ノックス、ジョン・バニヤンが使用した聖書である。

メイフラワー号でアメリカに持ち込まれた聖書の一つであり、多くの独立派の人々が読んだ。クロムウェルの軍隊が尊重した聖書であった。

(4)

なぜ 17 世紀に KJV が出来たのに、16 世紀にあった宗教改革の熱が冷めてしまったのかは、この KJV の問題に起因するのかもしれない。

悪魔側は、聖書をいじくりたいのである。

聖書をいじくれば、クリスチャンの信仰の土台そのものを破壊できる。

神の国の進展は、聖書を毀損することによって抑えることができると考えているのだろう。

KJV に隠された仕掛けについては、研究者が現れることを切望する。

欽定訳聖書はフリーメイソンの聖書だったのか？

tomomahi 様に紹介されたページを翻訳しました。下記参照してください。

ここで分かるのは、欽定訳聖書は、反宗教改革の性質を持っていたということです。

ジュネーブ聖書に載っていたカルヴァンの脚注を消したかった。その脚注を読んだ家臣が自分に対して反逆の心を持つことをジェームズ王 1 世は恐れたから。

ジェームズ王 1 世は、王権神授説を信じていたことで有名です。ということは、欽定訳聖書は王権神授説を擁護するための聖書であったということになる。

私は、その英語圏における信頼のゆえに、この聖書をあまりに高く評価しすぎていたと感じています。

さらに、欽定訳聖書の挿絵を掲載した下記リンクの図を見てください。

握手が、全部フリーメイソンのそれです。

翻訳者にフリーメイソンはいなかった、とか、ベーコンは挿絵に関与しただけで本文には関与しなかったとか反論もあるかもしれませんが、しかし、出版者がフリーメイソンを許容したという点は非常に重大なミスです。

もしかして、ジュネーブ聖書の創世記 1 章 1 節から 46 番目の言葉を God から light に変えたのもメイソンではなかったか。

そうすると、欽定訳聖書はフリーメイソンの聖書ということになってしまい、ウェストコットとホートのはるか以前からプロテスタントの聖書には悪魔の働きがあったということになってしまいます。

きわめて重大な問題です。

以下、

<http://www.brightshub.com/education/languages/articles/2409.aspx>

の翻訳。

翻訳の影響：ジュネーブ聖書 vs 欽定訳聖書

この記事で、ジュネーブ聖書と欽定訳聖書の翻訳の違いについて見ていきたいと思う。この2つの聖書翻訳がどのように相違するか、そして、なぜ両者の間の相違が1600年代における政治的環境が生み出したものであるか理由が分かるであろう。

聖書の異なる翻訳

異なった翻訳の人気の高まるにつれて、それに対応する文化の推移も変化する。この記事では、ジュネーブ聖書と欽定訳聖書という異なる2つの英語訳聖書に焦点を当ててみたい。

ジュネーブ聖書

1560年版ジュネーブ聖書：翻訳者は以下の通り：Walter Whittingham, Myles Coverdale, Christopher Goodman, Anthony Gilby, Thomas Sampson, William Cole, Thomas Greshop, John Knox。脚注はジャン・カルヴァンによる。ジュネーブ聖書は、イギリスにおいてプロテスタントが迫害された時期にプロテスタントによって翻訳されたため、翻訳者は、スイス・ジュネーブに集まらざるをえず、そこにおいて、翻訳物の出版の手配が行われた。元訳は1560年にジュネーブ出版によって1644年までの間に200部印刷され、それをもとに2つの訳が生まれた。

他にもオランダ、スコットランド、アメリカ、イギリスでも出版され、1575年に1560年版ジュネーブ聖書の出版に至った。1599年に、改訂版が発表され、現在、1599年版ジュネーブ聖書として知られている。その多くはウィリアム・ティンダルとマイルズ・カヴァーデイルの初期の翻訳に多くを依存していたが、ヘブル語の旧約聖書からの直接翻訳したはじめての英語聖書であった。完訳の入手が重要であったため、ジュネーブ聖書はプロテスタント、清教徒及びカルビン主義者が尊重する主要な聖書となった。

Illuminated Manuscripts www.cepuckett.com Medieval Illuminated Manuscripts, Maps & Antiquities for sale online Ads by Google The King James Bible

1604年に、イギリス王と聖職者が集まりハンプトン王宮会議が開かれ、一つの決定が下された。聖職者には、コーパス・クリスティ大学長ジョン・レイノルズがいた。聖書の改訂英訳を作るべきだとの意見に参加者は一致した。ティンダルとジュネーブ聖書の両方を土台とする欽定訳聖書を制作するために47人の学者が翻訳を開始した。この新しい翻訳聖書の制作の目的は、1599年版ジュネーブ聖書の利用の廃絶にあった。

1560年版と1599年版のジュネーブ聖書全体に付けられていた脚注は、カトリック教会とすべての支配君主制の権威を疑問視する内容であった。この本文のせいでジェームズ1世の権威に対して臣下たちが疑問の念を抱く恐れがあるということが、王にとって問題であった。ジェームズ1世と英国国教会の宗教的及び政治的見解を代表する統一英訳聖書が必要であった。これこそが、新しい翻訳聖書の制作を後押しした要因であった。最初の欽定訳聖書は1611年に出版され、その後、多くの改訂を繰り返したが、今日標準的英訳聖書としての地位を保っている。

聖書の違い

1599年版ジュネーブ聖書と1611年版欽定訳聖書の違いは明白である。欽定訳聖書は、学習用ガイドとして読者に人気のあった1599年版ジュネーブ聖書の脚注を撤廃した。さらに、1560年版及び1599年版ジュネーブ聖書の旧約は直接ギリシャ語旧約聖書とヘブライ70人訳聖書から翻訳されたが、1611年版欽定訳聖書は、旧約聖書の従来の英訳聖書の編集であった。

プロテスタント宗教改革は、1517年にカトリック教会の改革運動として始まったが、教会と君主政体が支配していた国々においては、政治的反動が生じ、宗教的迫害が発生した。そのため、イギリスでは、ジェームズ王1世が欽定訳聖書の制作を委任した際に、1560年版及び1599年版ジュネーブ聖書の利用を許容する空気はまったく存在しなかった。ジェームズ王1世と英国国教会は、彼らが制作した聖書だけが利用されることを望んでいた。プロテスタントと清教徒は、迫害の地に留まりそこで生活するか、別の国に逃れて新しい生活を始めるかしかなかった。プロテスタント宗教改革支持者の中には、オランダに移住した者もいれば、大西洋を横断してアメリカ植民地に逃れる者もいた。「宗教改革」としても知られているプロテスタントの改革は、ヨーロッパにおいて1648年まで続き、ウェストファーレン和平条約において終結した。

アメリカの本当の建国目的

<tomi>

これをご覧ください。

<http://www.youtube.com/watch?v=I2XqNv33DNE>

非常に興味深い。

どうやら、ベーコンが英語を統一したかったのは、NWO を米国において作り、米国を彼の秘密結社（フリーメイソン、薔薇十字団）の目的を達成するためであった。

<tomomahi 様>

なるほど、アメリカ建国そのものに目的があった、と。

<tomi>

そうですね。

<tomomahi 様>

「新世界」とは、アメリカではなくて、アメリカの強大な力（軍事・経済・文化・宗教）による「新世界秩序」の意味！

「自由」の定義が最初から違っている。「民主主義」も！

<tomi>

そうですね。

独立戦争時の5つの都市、ワシントン、ボルチモア、フィラデルフィア、ニューヨーク、ボストンは一直線に並んでおり、その先をずっとたどると、イギリスのストーンヘンジに行き着く（0:18:42 から）。

ワシントン DC は、第 77 子午線に沿っている。

オカルト主義者にとってこのラインは、神聖であり、そこに旗を立てることは特別な意味があった。

もう街づくりからすべて悪魔学に基づいている。

<tomomahi 様>

陰に日向に自分たちの秘儀を織り込んでおいた・・・「知識」のある者が見ればわかるように

<tomi>

そうですね。

<tomomahi 様>

それは自分たちの「力」の誇示でもあった・・・自分たちこそ世界を、歴史を支配しているのだ、いや、「創って」いるのだ、と。

<tomi>

全部バベルの塔のためでしょうね。

<tomomahi 様>

ここまでくると人間の知恵でも偶然でも説明できませんね。

超自然的な「知恵」と「力」がなければこんなことができるはずがない。

<tomi>

そうですね。

ワシントン DC を第 77 子午線上に設置した人は、フランシス・ベーコンの秘密結社のメンバーだった。

だから、ワシントン DC は、ニュー・ワールド・オーダーの首都として最初から選ばれていた。

ワシントンDC=ニューバビロン

<tomomahi 様>

そうすると、例えば日本でも「都市計画」なんてのは極めて怪しいですね。

The Guiding Spirit という言葉がでてきたけれども

<tomi>

でしょうね。悪魔学の知識がある人が見ればすぐに分かるような設計になっているのでしょうか。

<tomomahi 様>

まさに Spirit ですね。

「・・・のスピリットをうけついで」という言い回しがいつの頃からか「共通語」になっていますけれども・・・

これは大変だ！

<tomi>

悪霊の導きによって、仕掛けをしてきた。

聖霊の働きをしぼめるような仕組みも作って。

超人的ですから。やることが。

たとえば、義務教育制度。

一見すると万人の福祉のため、実は、サタンによる洗脳。

<tomomahi 様>

「キリスト教」さえもうまく利用した、キリスト教の名のもとに「神不在」を構築した。

<tomi>

韓国のクリスチャンの体たらくを見ていると、キリスト教に力がないと思わざるをえない。

だって、あれは、キリスト教の外貌を保った別のものだから。

力がないのは当然。

<tomomahi 様>

そうですね。韓国シャーマニズム（聖霊派）と儒教（長老派）の看板をかけただけ。

アメリカ流「民主主義」は、実はメイソンが作り、秘密結社の「秩序」で制御されている。

・・・だからアメリカが「共産化」しても何の不思議もないのですね。

あちこちに Cornerstone を埋め込む儀式も、まことの隅の親石であるイエス・キリストに対するあからさまな反逆なのでしょうね。さらには「キリスト教」さえも自分たちが支配していることの表現なのかも。

<tomi>

そうですね。

それから、「緑の党」の緑 GREEN のコンセプトの起源が分りました。

イルミナティのアトランティス伝説です。

http://wn.com/Atlantis_The_illuminati's_Biggest_Secret_2

くだらない物語ですが、イルミナティの幹部しか知らないものだそうです。

宇宙人と人間の交配してできた子供の一人がグリーン・サムという。

彼らの子孫が地球のバランスを保つ務めがあると。

<tomomahi 様>

なるほど、あの「ミドリ十字」が AIDS の人体実験を日本でやっても何の不思議もありませんね。
そして、あの会社の上層部は結局厚労省の天下り団体や他の製薬会社に潜り込んで今でも暗躍している。

<tomi>

そうです。

これらの子供がイルミナティ 13 血族。

つまり、イルミナティにとっての、創世記に代わる寓話。

ここに彼らの世界統治の正当性がある。

グリーンとか、緑という、自然愛護的な清潔なイメージですが、実際はイルミナティの悪魔なのです。

<tomomahi 様>

フランクリンがモーセを気取っていた（自分をモーセになぞらえていた）なんてのは噴飯ものですね。

な一るほど、アメリカが「死の商人」と「世界の警察」を両立できるわけだ。

世界中の「事件」全部彼らのシナリオ。

全部自作自演。

<tomi>

このページにあるすべてのビデオを見る予定です。

なぜならば、イルミナティの連中が何を信じているか知らないとわからないことが多いので。

原爆落とすなんて、まともな精神では考えられない。

しかし、これも、イルミナティが何を考えているかわかれば謎が解ける。

おそらく全部悪魔学的な意味があるのでしょう。

それを世界の指導者は互いに知識を共有しており、われわれのわからないところで計画を推進している。

非常に熱心に。

そして冷酷に。

<tomomahi 様>

われわれ（民衆）は、その計画に組み込まれて、その計画遂行のためにそれこそ「適材適所」で働かされている、と。

<tomi>

とくにアメリカ人は、やりたくない戦争にいつも駆り出され、人殺しをさせられる。

日本の占領なんかも、このアトランティス伝説がわからないとだめでしょう。

たんに歴史学のようなものでは分からない世界です。

きわめて宗教的な動機でトップの人々は動いているということです。

しかも、成功してきた！

不思議です。

<tomomahi 様>

そうですね、見事に。

なぜ神がここまでシロアリの巣の拡大を許されたのか。

モロク礼拝をしていたカナン人は殺されました。

なぜイルミナティの連中はモロク礼拝をやって悪魔崇拝しているのに殺されないのか。

<tomomahi 様>

聖書に記載された（神がさばかれた）悪事を遥かに上回ることをしても榮譽栄華の限りを尽くしているのですからね。

対して正当なクリスチャンは、とても彼らとまともに対峙できるだけの力がない・・・すべて奪われてきた。

<tomi>

だから、おそらくこれは至福千年紀に至るための宮聖めではないかと。

私は、イルミナティの興隆が、竜の復活としか思えない。

古代の異教世界が出現している。

まるでキリストが生まれ、復活されなかったかのような。

この世界がキリストの世界とは思えないくらいの異教ぶりです。

<tomomahi 様>

しかし、そうするとこれまでの世界の歴史（古代エジプトから現代に至るまで）は「サタンが縛られて、諸国の民をまどわさない」ではなかったことになりませんか？

<tomi>紀元 70 年にサタンは縛られたのです。

それからずっと千年王国が進展してきた。

しかし、竜は再び復活しなければならないと書いてあります。

一時的に。

それをキリストは滅ぼされる。

<tomomahi 様>

復活したのは、アメリカ建国から、でしょうか？

<tomi>

そうですね。

そのためにベーコンが準備した。

Styx というロックバンドが、「サタンが底知れぬ穴から出てきた」とうたっています。

どうもそんな感じがしてならない。

<tomomahi 様>

そうか！「諸国の民を惑わす」ためにはそれだけの「力」が必要だから！

「超大国」をまず築き上げる必要があった！

<tomi>

そうですね。

16世紀にフランシス・ベーコンが薔薇十字団のトップに座った。

そして、新大陸にニュー・ワールド・オーダーを作れとの命令を発した。0:29:20

だから、アメリカは、秘密の帝国、ニューアトランティスだと。

0:29:43、当時のニューファンドランドが発行した切手に「フランシス・ベーコンは、植民地の計画における導きのスピリット」と記されている。

<tomomahi 様>

この番組の最後のところでカバラはその秘儀によって人間を「神のような存在」にまで引き上げようとする、というのがありましたが、要はサタンの「あなたがたが神のようになり」そのものなのですね。

ベーコンは「原罪」を追わせられエデンの園から追放された人間の「救済」を考えた、その手段はキリスト教の伝統的な教えでなく、秘教カバラであった、と。

サタンに見いだされ、サタンに全てを捧げた人間・・・哀れといえば哀れですがね。

The Guiding Spirit、すなわちサタン

そして今や人類は、それこそ「そのスピリットを受け継ぎ、次の世代に伝え」るために血と涙と汗をふりしぼって（ふりしぼらされて）いる！！

<tomi>

そうです。だから、救いには2種類しかない。キリストの贖いか、知識の実を食べて悪魔から力をもらうか。

<tomomahi 様>

Mr. Gray は、結局真っ黒になるのですね。

<tomi>

そうですね。

おそらく、ベニー・ヒンとかあそこらへんのやっていること、たとえば、ボディランゲージみたいなのに、こういった秘密結社の影響があると思います。

私の霊的な感性から言うと、メイソン流に見えます。

<tomomahi 様>

Holy Blood 云々というのがちょっと出ていましたけれども、ベニー・ヒンがあるとき、やけに「血」を強調していました。

そう、結局何かしらの「秘儀」を求める。

「霊的に引き上げられる」という言い回し、あるいは例の「五役者の回復」のように、妙なヒエラルキーがあって、その階級を上っていくと「賜物が付与される」というのも。

<tomi>

それって、もろにメイソンでしょう。

彼はレバノン人の血を引いているらしい。おそらくユダヤ系ではないかと。

<tomomahi 様>

ベニー・ヒンの次はメシアニック・ジューでいよいよカバラ上陸、だったのかもしれませんが。

してみると、マルコーシュの聖書もあぶないですね。思い切り危ない。

ビザンチンで権威づけされて、KJV 日本版を作られたら・・・

<tomi>

そうですね。

悪魔は接近するでしょう。

結局、メイソンの影響から逃れた人しか翻訳できない。

<tomomahi 様>

日本が至聖所なら、いよいよ「海辺の砂のように聖徒の陣営を取り囲む」ことになりますね。

<tomi>

そうですね。

今もうすでに取り囲まれています。

私は毎日、イルミナティの悪魔を縛っています。

第三次世界大戦も、イラン・イスラエル戦争から始まる予定だし。

<tomomahi 様>

取り囲むどころか上陸していますよね。橋下が総理の座を狙っていて、国民もそれを期待している、なんて話もマスコミの下地づくりでしょうからね。

<tomi>

そうですね。

イルミナティの前原首相構想はとん挫したみたいですが。

彼が首相になった絶対に日中戦争で核戦争やらかす。

<tomomahi 様>

いよいよ政界には「そして誰もいなくなった」状態で、河村やら橋下やらそれこそ「カリスマ」が出番を待っている。

マスコミはテレビもネットも総動員して国民の洗脳に躍起になっている。

<tomi>

祈らないといけませんね。

ベーコン以前に帰る必要がある

インターネットのおかげで、いろんな知識が得られることはクリスチャンにとって幸いである。

ゲイリー・ノースの著作からアメリカ建国の父がメイソンであるとは知っていたが、そのメイソンたちを背後で動かしていた人間にまでは思いが至らなかった。

フランシス・ベーコンである。

彼こそが、真のアメリカ建国の父である。

フランクリンは自らをモーセと呼び、メイソンのために米国を作った。しかし、時代は100年違えども、そのフランクリンの背後にいたのがベーコンなのである。

ワシントンDCは第77子午線と5大植民地都市を結んだ要の位置に作られている。5大植民地都市を結ぶ直線は遠くイギリスのストーンヘンジに行き着く。

パワースポット中のパワースポットである。

アメリカとは、フリーメイソンのために作られたオカルト国家であるという認識がなければわれわれは間違う。

このような国のキリスト教というものがおかしくなったとしても不思議ではない。

1986年にアメリカに滞在し、クリスチャン大学生を見て直感的に感じたのは「この国はクリスチャンの国ではなく、啓蒙主義の国だ」ということだった。

この感覚はその後もずっとあったし、今理由がわかった。

フランシス・ベーコンは「知識は力である」といった。

ベーコンを支配し、そして、後の建国の父たちを支配していたのは、「救い主なる知識様」である。

アメリカとは、知識を崇拝する国。

この知識とは、もちろん、「善悪の知識の木の実」である。

神とは独立して成立する知識。

つまり、サタンの知識。

サタンに頼り、サタンから知識を与えられて、地上を支配する道。

これが、初代フリーメイソンのグランドマスターと呼ばれるフランシス・ベーコンの道であった。

アメリカの正統派とは、悪魔教であってキリスト教ではない。

アメリカが、オベリスクやイシュタルの像（自由の女神）などフリーメイソンの象徴に満ちているのは、それがもともとフリーメイソンの国として造られたからだ。

日本も、戦後、マッカーサーというフリーメイソン 33 階級のグランドマスターによって「啓蒙」された国になってしまった。

現代英語は、欽定訳聖書とシェークスピアというベーコンの仕掛けが施された文書によってメイソンの言語になった。

メイソンの言語とは、バベルの塔の言語。

ベーコンは、英語をニュー・バベルの塔を中心として成立するニューバビロン、つまり、ニュー・ワールド・オーダーの統一言語として用意したのだ。

われわれは、真のクリスチャンとして、これらのバベルの塔文化から徹底して自らを聖めなければならない。

だからといって英語を使うなということではない。

新約聖書は、当時の世界語であったコイネーギリシャ語で書かれている。

もちろんギリシアは多神教である。

偶像文化だからすべて捨ててしまうということではなく、道具としてえり分ける知恵を持つ必要があるということだ。

しかし、聖書は、ベーコン以前に帰る必要があるだろう。

ジュネーブ聖書に再び光を当てなければならない。

シェークスピアに隠されたメッセージ

シェークスピアの正体がフランシス・ベーコンであったことを示す次のページを開くとフラッシュムービーが出てきます。

<http://www.spearshaker.com/>

シェークスピアの二つ折り本が出てきます。これは、1623年発行の初版本だそうです。「テンペスト」の頭字Bの装飾の中にFrancis Baconの文字が隠されています。

おそらくシェークスピアのゴーストライターはフランシス・ベーコンだったのでしょう。

KJVには仕掛けがしてあります。

フリーメイソンの数字46が鍵です。

創世記1:1から数えて46番目の単語がlightです。

ジュネーブ聖書ではGod。

つまり、神から光になった。

ルシファーは、「光を携える者」ですから、神からサタンに強調点が変わった。

詩篇46篇の1節から数えて46番目がShake、後ろから数えて46番目がSpearだ（セラを除く）。

完全に自分の名前を刻んでいる。

そして、シェークスピアという名前も奇妙だ。

「槍をふるう」。

欧米の絵では、サタンは槍を持っている。

シェークスピアとは「槍をふるう者」=サタンということなのか。

フランシス・ベーコンが、薔薇十字団の教祖的存在であり、フリーメイソンの第一代グランドマスターだったことから考えると、これも可能性として否定できない。

KJV全体が、実はサタンの暗号が隠されているのではないかと思えてきた。

知識教を徹底して捨てよう

<http://www.thinker-japan.com/thinkwar.html>

上記は、非常によくまとまった真の世界史の説明です。

ぜひご一読ください。

私たちは、マスコミや教育機関も支配されていますので、偏った情報によって大なり小なり洗脳されています。

キリスト教界もイルミナティがばらまいたディスペンセーションナリズムによって完全に洗脳状態にあり、われわれだけが正気にいるという恐ろしい状況です。

上記の解説も素晴らしいのですが、しかし、本当の陰謀のルーツについては説明していません。近代のロスチャイルドによる世界支配から出発しています。

本当のルーツは、エデンの園です。エデンの園において、悪魔がエバを誘惑して、「知識による救い」を提供し、それに負けてしまったというところにあります。

それ以降、悪魔は、キリストによる贖い以外の方法として、一貫してこの「知識による救い」を提供してきました。

バベルの塔→バビロン→ギリシア→グノーシス→啓蒙主義→共産主義

「知識による救い」の流れはこのようにして発展してきました。

「知識による救い」教（「知識教」と呼ぶ）は、「善悪を自分で決定する」ことを教えます。

ローリングストーンズのミック・ジャガーは、You Can't Always Get What You Wantの中で「自分のやりたいことをやれ」と歌ったが、これは、悪魔崇拝者アリスター・クロウリーの思想に影響を受けていることを示しています。

クロウリーは、著書の中で次のように述べました。

- ・汝がしようとすることをなせ。これが法のすべてだ。
- ・愛は法である。
- ・すべての男女はスターである。

http://www.popsubculture.com/pop/bio_project/aleister_crowley.html

ロック音楽によってこのクロウリーのメッセージは、われわれの日常生活の中に浸透しています。

われわれは知らず知らずのちに、「知識教」の支配を受けています。

イルミナティがロックを使って、われわれを洗脳してきたのがこれでお分かりでしょうか。

問題の根源に切り込まない限り、本当の解決は得られません。

近代のロスチャイルドは、知識教の一部でしかない。

ロスチャイルドをたたいても、知識教そのものをたたかない限り、解決はない。

私たちは、キリストによる贖いの流れに立つ聖書的キリスト教を信じ、知識教を徹底して捨てましょう。

ここが共通認識になるように祈ります。

教会はクロウリーのヒューマニズムに毒された

既出だが、悪魔教教祖アレスター・クロウリーは、著書の中でこう述べたという。

- ・汝がしようとすることをなせ。これが法のすべてだ。
- ・愛は法である。
- ・すべての男女はスターである。

http://www.popsubculture.com/pop/bio_project/aleister_crowley.html

このメッセージはロック音楽を通じてわれわれの心の中に入っている。

しかし、驚くべきことに、これは、次のディスペンセーションナリズムの教えと一致する。

- ・クリスチャンはもはや律法には支配されない。つまり、われわれは規則にとらわれない。自分のやりたいことができる。
- ・法じゃなくて愛だ。法にこだわると律法主義になる。イエスは律法を超越し、愛を実践された。
- ・あなたはスターだ。あなたは愛されている。あなたは愛されるために生まれてきた。

実質、教会はディスペンセーションナリズムを通じてクロウリーの悪魔教と同じ教えになった。

聖書の教えは次のとおり。

- ・クリスチャンは神の国の住民であるから、神の法を守るべし。守れなくても、悔い改めて努力するなら留まることができ、永遠の命を相続するが、悔い改めないなら永遠の刑罰を受ける。
- ・法と愛は両立する。どちらも中心でありどちらかが他方を犠牲にすることはない。イエスは律法を超越して愛されたのではなく、愛のために律法を守られた。もし律法を守る必要がないならば、十字架にはつかれなかっただろう。
- ・クリスチャンは王である。しかし、同時に神のしもべである。「死に至るまで忠実であれ」と言われた。あくまでも神が中心である。われわれが何かを行ったとしても「なすべきことをしたまでにすぎません。ご主人さま。」と神に申し上げるべきだ。

教会は、クロウリーのヒューマニズムに毒された。

聖めを行うべきだ。

アメリカはノアの洪水において滅んだアトランティスの再現

アメリカは、フランシス・ベーコンという薔薇十字団とフリーメイソンの親玉が計画した国である。

ノアの洪水の際に沈んで滅亡したアトランティス国を再現するというのが彼の計画だったらしい。

<http://www.youtube.com/watch?v=5loY1DP8dvI>

によると、アトランティス大陸の西海岸が、今のアメリカの東海岸だったという。

もうお気づきかもしれないが、洪水で滅んだということは、神のみ怒りを受け、しかも、悔い改めなかった人々の国ということである。

それを再現しようということは、つまり、神に反逆する文明を再現しようと同義である。

だから、アメリカという国は、ノアの洪水において滅んだ邪悪な反逆の霊が、秘密結社という形で働いている国なのだ。

歴史とは、2つの霊の戦いであるということがこれでもわかる。

アベルからノアに至る流れと、カインからアトランティスに至る流れ。これが現代では、キリスト教再建主義とイルミナティの対立となって現れている。

われわれは、神の霊の側に立っている。

そして、神のほうがサタンよりも圧倒的に強い。

神は、ノアの洪水のときのように、悪者の支配を滅ぼされる。

もう一度、洪水のような世界的大破局が襲うかもしれない。

ノアのように、われわれはこの世の邪悪なものから離れ、方舟に入ることができるように自分を整えよう。

NKJV と NIV はイルミナティ・ルパート・マードックの手に落ちた

本日（2012年2月22日）のゲイル・リプリンガーのニュースレターによると、

ニュー・キング・ジェームズ聖書（NKJV）が、『サタンの聖書（Satanic Bible）』を出版している会社に売却された。

NKJV のもとの所有者であった Thomas Nelson Publishers は、ルパート・マードック・ニューズコープ社とその子会社 HarperCollins に買収された。HarperCollins 社は、Anton LaVey が書いた Satanic Bible の出版社でもある。

ルパート・マードックは、1988年に Zondervan を買収し、NIV の著作権も持っているから、米国人に使用されている主要な聖書の2つが彼の掌中にあるということだ。

マードックは、ご存じのとおり、メディア・コングロマリットのニューズ・コーポレーションを所有することから世界的なメディア王と呼ばれる。

彼自身ユダヤ人かどうか論議があるが、FOX など傘下のメディア企業を見ると、親米・親イスラエルなどの姿勢を取り、明らかにシオニスト・ネオコン、つまりイルミナティと考えられている。

<http://www.youtube.com/watch?v=o4iaGR0G24M>

これからも、ファンダメンタリズムの書籍がイルミナティに次々と買収されていくのか。

「現在、米国で出版されているほとんどすべての聖書は、エロスとサタン聖書の販売者マードックの管理下にある。」